

## \*データのご利用にあたって

- ・データ責任者 川上 創（海洋研究開発機構）
- ・データの利用制限 責任者（川上 創）と要相談 (kawakami@jamstec.go.jp)
- ・引用方法 Hajime Kawakami (2023) 228Ra and 226Ra radioactivities of the surface water in the northwestern North Pacific. JAMSTEC. doi:10.17596/0003464 (accessed YYYY-MM-DD)

## 品質

Processed (PI)

## 観測機器

機器名

 $\alpha$ 線測定装置

機器の概要：セイコーEG&amp;G社製Octéte

機器名

 $\gamma$ 線測定装置

機器の概要：セイコーEG&amp;G社製GWL-120210

## サンプル種別

海水, その他

## サンプル名

海水

## 概要

海洋表層の水塊混合を解明するための228Ra, 226Raデータ。海水試料は、表層連続採水ポンプ（取水口水深：7m）を用いて採取した。データは、データサイト(<https://doi.org/10.17596/0003464>)に保管されているExcelファイル内に納められており、内容は、採取日、採取位置、塩分、228Ra比放射能、226Ra比放射能、228Raと226Raの比 (228Ra/226Ra)である。228Ra, 226Ra, 228Ra/226Raの測定誤差は、カウンティングエラーから求めた。

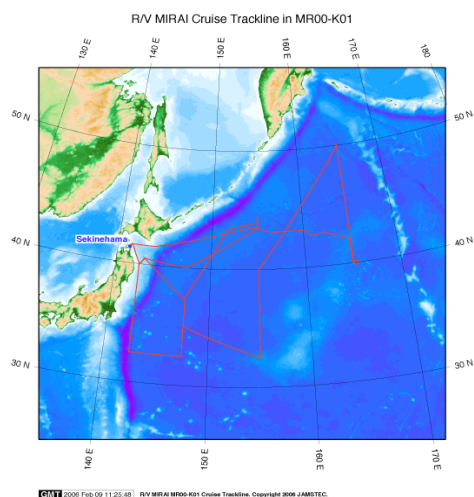
データの保管場所は

「[https://www.godac.jamstec.go.jp/data\\_catalog/view/metadata?key=228Ra\\_226Ra\\_NP&lang=ja](https://www.godac.jamstec.go.jp/data_catalog/view/metadata?key=228Ra_226Ra_NP&lang=ja)」。

## データフォーマット

エクセルファイル

## 関連情報



### MR00-K01

船舶名：

みらい

期間：

2000/01/05 - 2000/02/06

主席/首席：

本多 牧生（海洋科学技術センター）

課題名：

「みらい」搭載ドップラ-レーダをもちいたTRMM/PRの検証

海上気象連続観測による大気-海洋間の熱フラックス観測研究

海色衛星リモ-トセンシングによる亜寒帯海域における基礎生産量推定のための基礎研究

高緯度海域における物質循環機構解明に関する観測研究

地球物理観測データを用いた海洋底ダイナミクスの解明に関する研究

冬季の高緯度海域における気体交換メカニズムの解析およびJGOFS時系列観測点(KONT)における短寿命放射性核種、溶存ガスの冬季分布

表層-深層、底層-堆積物間の物質輸送の化学的・放射化学的研究

放射性炭素を用いた北西部北太平洋における炭素循環研究

北西太平洋の生物地球化学過程の時系列観測